

## 第2回庄内地区子どもたちの声を聞く会

期日：平成31年1月23日（日）19:00～

場所：庄内地区公民館

1. 庄内の町を人いっぱい！

都城市立庄内小学校 6年 中村 旺介

2. 平和の大切さ

都城市立菓子野小学校 6年 赤池 玲香

3. 乙房のよさを高めよう

都城市立乙房小学校 6年 福野 凜々菜

4. 将来の夢

都城市立庄内中学校 2年 末平 海雄

5. 地域との関わり方

都城市立庄内中学校 2年 蒲生 沙樹

## 庄内の町を人いっぱい！

都城市立庄内小学校 6年 中村 旺介

ぼくには、家族がいます。みんな明るく、優しく、しっかり者です。家族とは学校のことや習い事など何でも話せます。そんな家族の前だと周りの目を気にすることなく、ゆっくり休めます。時々、けんかをすることもあります、すぐに仲直りできます。ぼくは家族が大好きです。

もう一つ大好きなことがあります。それは、ぼくが住んでいる町、庄内です。お店や病院が近くにあり、生活に困りません。周囲には山や田畑が広がり、豊かな自然に囲まれています。庄内ならではの歴史や民俗芸能もあります。そして、何より人の心が温かいです。

朝、登校していると、地域の人が車や不審者からぼくたちのことを見守ってくださっています。心配してもらっていると思うとうれしいです。

放課後、遊びに出かけて、道路ですれちがうと、気持ちのよいあいさつをしてくださいます。あいさつをすると、心の距離が縮まる気がします。だから、ぼくも見習って、すれちがった人に、進んであいさつをしようと思いました。今では、自分から「こんにちは」とあいさつをしています。

しかし、そんな庄内の町ですが、人が住んでいない空き家があったり、だんだん庄内小の児童数が減っていったりと、何かが足りない気がします。もっと魅力があり、多くの人が住みたくなるには、どうすればよいか考えました。

一つ目は、空き家をこわして、大きな店をつくることです。いろいろな所から買い物に来てくれれば、にぎやかになります。

二つ目は、庄内の良い所をもっとアピールすることです。自慢の滝や石垣、神社などを知らせるために、チラシやパンフレットを作って配ればよいと思います。パソコンやスマホでも見られるように、ホームページも作ってみたいです。

三つ目は、子どもから高齢者までが楽しめるイベントを行うことです。ぼくはふるさと祭りで夫婦踊を発表しました。お客さんがたくさんいたけれど、楽しく踊れました。その時に、たくさんの方が集まるっていいなあと思いました。

これからも庄内の町の評判が上がり、住む人が増えて、活気のある町になって欲しいです。

## 平和の大切さ

都城市立菓子野小学校 6年 赤池 玲香

みなさんは、「平和とは何か」考えたことは、ありますか。私にとって「平和」とは、戦争などのあらそいごとがない、人々が幸せに暮らしていることだと思います。私は、庄内大空襲や太平洋戦争のことを学習したときから、「平和」について考えるようになりました。

今から73年前、1945年8月6日のことです。この日は、広島に原爆が落とされた日です。しかし、広島だけでなく、私たちが住んでいる庄内地区も、空襲を受けていました。これを「庄内大空襲」と言います。庄内だけでなく他の地域も被害を受け、都城だけで56名が犠牲になりました。

私たちが住んでいる地域で、73年前に住民が悲さんな思いをして生活しているとは思いませんでしたし、これから庄内地区が平和であり続けられるといいなと思いました。

また、社会科で第二次世界大戦のことや戦争中の人々の暮らしについて学び、「ぜいたくは敵だ」や「非国民」などと、言われていた人がいたことも知りました。今では、考えられない言葉を聞き、驚いたのですが、その当時は当たり前のことだったそうです。私は、日本の勝利を多くの人々が信じて、毎日苦しい生活にたえていたんだと悲しくなりました。

私の身内にも戦争に行った方がいます。ひいおじいちゃんはサイパン島へ戦争に行き、20代という若さで亡くなりました。当時、生後二ヶ月だったおじいちゃんは、自分のお父さんを写真でしか見たことがありません。ひいおばあちゃんは、二人の息子をかかえて、必死に働き、立派に育てたそうです。一番つらいのに、とてもよくがんばったと思います。もし、ひいおばあちゃんやおじいちゃんたち息子2人が栄養失調で亡くなっていたら、おじいちゃんの娘である私のお母さんや私自身は存在していなかったかもしれませぬ。生活がとても苦しい中、息子二人を大切に育てたひいおばあちゃん、戦争で最後まで戦ってくれたひいおじいちゃんに心から感謝したいです。

私は、戦争のことを学んだり、ひいおじいちゃんの話などを聞いたりして、平和に暮らしていることのありがたさを学ぶことができました。修学旅行で行った知覧特攻平和会館でも、生きていたかったのに、戦争で命を落とさなければならなかった人が大勢いたことを知り、私は、戦争は絶対にしてはならないことだと、

強く思いました。また、亡くなった方の尊い命の分まで、たくさん生きて、一日一日を大事にしたいと感じました。しかし、これからは、戦争がおそろしいものだという事を知らない人が増えてくると思います。自分たちがなぜ平和でいられるのか、平和のありがたさを周りの人や自分の子どもたちの世代に伝えられるよう、心がけていきたいと思っています。

## 乙房のよさを高めよう

都城市立乙房小学校 6年 福野 凜々菜

私達は、このテーマについて学級で話し合いました。本日は、その話合いで出した意見を、私が代表で発表します。

まず、乙房のよさを出し合いました。1つ目は、挨拶です。私達も元気のよい挨拶を心がけて頑張っているのに対して、笑顔で挨拶を返して下さる方がたくさんいらっしゃいます。特に、毎朝私達の登校を見守って下さるスクールガードの皆様のおかげで、私達も1日頑張るぞと気合いが入ります。2つ目は、自然が豊かだということです。山や川、田畑に囲まれているこの環境で生活できていることは、とてもありがたいということに気が付きました。3つ目は、伝統芸能を受け継いでいることです。乙房小では、奴踊りを継承していて、高学年が踊りや三味線の練習や披露に励んでいます。受け継がれている伝統があるということやそれを指導して下さる方がいらっしゃることは当たり前ではない、素晴らしいことだと思っています。

次に、これらのよさを生かして、さらに乙房小を良くしていく取組について、話し合いました。1つ目は、元気で明るい町にすることです。そのために、私達ができることは、やはり挨拶です。挨拶は、コミュニケーションの基本です。乙房のよさでもある挨拶を、私達一人一人が積極的に行うことで、地域全体を一層つなげ、盛り上げていくことができるのではないかと思います。2つ目は、美しい町づくりです。小学校の横にある農村公園では、1学期にお菓子の袋やペットボトルのぼい捨てがありました。そのことを、全校朝会で校長先生からご指導頂いたことをきっかけに、ぼい捨てはなくなりました。一人一人の心がけ次第で、美しい環境を保つことができるということです。この心がけを地域全体に広げることで、より美しい乙房にできると思います。3つ目は、伝統を守り続けるとい

うことです。先輩方から受け継いできた伝統を後輩達も一生懸命に受け継いでもらいたいと願っています。そのために、残りの2ヶ月の間に、奴踊りの技術だけでなく、大切にしている気持ちを5年生に伝えていきます。

私達6年生は、あと2ヶ月で慣れ親しんだ乙房小学校を卒業します。しかし、乙房という地域の一員であることには変わりません。小学生のよい模範として、今後は乙房だけでなく、庄内地区全体を引っ張っていく中学生になり、ともに地域を盛り上げていきます。

ご静聴ありがとうございました。

## 将来の夢

都城市立庄内中学校 2年 末平 海雄

僕の将来の夢は、レスリングの全国大会で優勝して、世界大会に出場することです。そのために、毎日の練習に全力で取り組んでいます。特に、合宿は、高校生の合宿に参加して、自分より強い選手から1ポイントでも取れるようにチャレンジしています。また、練習が休みの日も走ったり、筋トレをしたりして、自分が少しでも強くなるように努力しています。

僕がレスリングを始めたのは、小学4年生からです。始めた頃は、レスリングが楽しいという理由で、練習に行っていました。やがて、5年生になった時の九州大会で、6年生に何もできずに負けてしまいました。それがとても悔しくて、先輩たちに練習をお願いして、自分を追い込みました。その結果、小学5年の最後の九州大会で、見事優勝することができました。そして、それからは、県大会と九州大会で負けたのは1回だけでした。

その頃の僕は、誰にも負けないと思っていました。しかしながら、中学生になって初めての大会で、2年生に何もできずに負けてしまいました。そこで、中学生のレベルの高さと、自分が未熟だということを知りました。それ以来、県内のトップレベルの高校生や先生方とスパarringをして、死にもの狂いで自分を追い込む練習をしました。その甲斐あって、12月の九州大会で優勝することができました。

僕は、中学校卒業後は、都城市内の高校のレスリング部に入部したいと考えています。そして、インターハイで優勝して、小学生からクラブで指導してもらっ

た先生に恩返しをしたいです。そのためにも、日常の学校生活をしっかり送ると同時に、生徒会の仕事を積極的に行い、夏休みのボランティア活動にも参加しようと考えています。

僕が所属するクラブの先生は、「日頃からコツコツ努力することが大事」とよく言います。だから、僕は、自分の夢を叶えるために、レスリングの練習や学校生活の両方とも大事にしたいと思います。そして、自分の憧れの舞台である世界大会のマット上で試合することを夢見て、日々一生懸命に努力していきたいと思います。

## 地域との関わり方

都城市立庄内中学校 2年 蒲生 沙樹

私が、これから庄内中の一人の生徒として、そして、生徒会長として目指していきたい地域との関わり方は、ここ庄内地区で多くのことを学び、庄内の良さを知り、そして、庄内のためにできる活動の一つでも多く実践していくことだと思います。

そういった視点から、私はこれまでいろいろな形で地域と関わってきました。その取組を振り返り、それを今後の活動や将来にどう生かしていくかを考えてみたいと思います。

まず、夏休みのボランティア活動についてですが、毎年多くの生徒が保育園や高齢者施設等に出向いて活動しています。私も実際に乙房子ども保育園に行き、幼児のお世話をしました。その中で、働くことの大変さや難しさを肌で感じましたが、それと同時に、子どもたちの笑顔や素直さに接して、やりがいを感じることができました。もちろん、一緒に参加した他の生徒たちも同じように感じていたと思います。

次に、昨年11月に白寿園とミューズの空を訪問して、そこで合唱を披露したことについてです。昨年度から生徒会の新たな取組として始めたのですが、今年度は予想を超える40名以上の生徒が参加し、「故郷」などを歌いました。涙を流して聞いてくださる方々や一緒に口ずさんでくださる方々を見て、また来年度もぜひ実施したいと考えています。

その他にも、地域の方々にはとてもお世話になり、いろいろな形で関わってい

ただいています。そのことは、私たちが社会に出た時や将来に渡っても役立つことになると思います。今、私たちが楽しく充実した学校生活を送れているのは、先生方や保護者、そして地域の皆さんのおかげだと思います。だからこそ、周囲の方々が支えてくださることを常に忘れずに毎日を過ごしていきたいと思います。そして、この感謝の気持ちを持ち続けながら、生徒会活動や地域と触れ合う活動において、チーム庄内として活動していきたいと思います。

ところで、地元を離れ、都会に出て行く若者が多い時代になりましたが、例えば庄内を離れても、ここ庄内で学んだことをそれぞれの人生に生かしていきたいと思います。そしてできればまた庄内に戻って、庄内のために恩返しができるらいいなと考えています。

そういったことを考えながら、庄内中の一員として、これからもいろいろなことに挑戦していきたいと強く思います。

庄内あってこそその庄内中であり、一人の地域住民であることに誇りをもって…  
…。